

## 特別企画展「水葵物語」

6月14日から8月31日  
[釜石市郷土資料館]

片岸の海岸近くに自生する絶滅危惧植物：ミズアオイは、震災でその群生が壊滅してしまいました。震災から1年後、泥で覆われた休耕地からミズアオイの発芽が確認されました。

このほど、貴重な植物の再生と保全活動を広く知ってもらおうと展示会が開かれ、期間中には、NPO法人ASIA Environmental Alliance（アジア インバイオナメンタルアライアンス）や岩手県立大学などが主催するイベントも行われました。参加した子どもたちは、釜石発祥の技法である原色押し花、標本づくり、夜の資料館探検、ミズアオイの試食など、普段できない体験を夏の終わりの思い出にしようと楽しんでいました。



子供学芸員体験で大学生のやさしい指導を受ける小学生



夜の資料館を探検する親子



ミズアオイの天ぷら



原色押し花

## 第3回避難所運営フォーラム 「東日本大震災時における福祉施設による臨時避難所の運営状況について」

8月30日 [釜石商工高校 はまゆりホール]

東日本大震災では指定の避難所以外にも、自主的に臨時の避難所が開設されました。約80名の参加者が集まった今回のフォーラムでは、民間の福祉施設の事例を題材として、サービス利用者および既入居者のケアと避難者受け入れの両立など、今後の避難所運営体制はどうあるべきか話し合いました。会場からは運営時の経費、家族への引き渡しのタイミングや土砂災害時の対策などについて質問があり、議論が深められました。



パネルディスカッションで意見を述べる発表者

### ■発表～パネルディスカッション

- コーディネーター  
釜石市社会福祉協議会  
菊池 亮さん
- 発表者  
やまざき機能訓練デイサービスホーム  
山崎 忠男さん  
特別養護老人ホーム アミーガはまゆり  
久喜 真さん  
特別養護老人ホーム あいぜんの里  
久保 修一さん  
いきいき指定唐丹居宅介護支援センター  
小山 彩子さん

## ウルトラシャルソン

8月24・25日 [市内各所]

シャルソンとは、ソーシャルマラソンの略称で、距離もコースも決まっていないスタートから目的地までを、地元の名所を巡ったり、地元の方々と交流したりしながら走り、最後の目的地でパーティーを行い、参加者たちが当日の出来事などを報告し合うイベントです。「記録」よりも「思い出」を競うマラソンで、近年、日本の各地で開催されています。

今回のウルトラシャルソンでは、スタートの釜石から気仙沼までの区間100キロ超を走ったり歩いたりしながら4日間でゴールするもので、参加者が訪れた先々の現況や心情などがインターネットで伝えられました。

初日の8月24日、一行は大町をスタートし、県道水海大渡線を通って鶴住居までの区間約16kmを走りました。ゴール後は、震災体験や復興状況を学んだほか、地元の人たちと郷土料理を楽しみながら親睦を深めました。そして、翌25日早朝、参加者たちは市役所前から平田駅まで走った後、三陸鉄道で大船渡に向かいました。

### ウルトラシャルソン日程

8月24日	釜石
8月25日	大船渡
8月26日	陸前高田
8月27日	気仙沼



県道水海大渡線を走る参加者たち



三陸鉄道で次の目的地:大船渡へ



ウルトラシャルソンの参加者

## 甲子中学校たたら製鉄体験

8月26・27日  
[大橋・旧釜石鉱山事務所]

甲子中学校の1年生たちが総合的学習「ふるさとを知る」の授業で、たたら製鉄体験をしました。レンガを組み立てて炉をつくる作業や木炭を小さく砕く作業なども生徒たちが行いました。製鉄の作業では、4つの班に分かれて、大島高任に見立てたリーダー役が作業の指示を行いました。鉄の精製に使用される鉄鉱石は釜石の磁鉄鉱が用いられています。生徒たちは木炭の粉やススで黒くなりながらも、炉に鉄鉱石と木炭と石灰を投入し、炉内の詰まりを取り、木炭を下に落としていく作業を交代で行い、鉄鉱石から鉄ができる工程を楽しみ、釜石の鉄づくりの先人たちの苦勞に思いをはせました。



炉内の詰まりを取って木炭を下に落とすしていく



勢いよく流れ出るノロ(鉄滓)



鉄の精製に成功!